

情報モラルを育成するためのホームルーム実践 ー情報科生徒の自覚を促すホームルーム活動ー

奈良県立奈良情報商業高等学校 教諭 岸 禎二

Kishi Teiji

要 旨

ネットワーク社会における様々な問題やトラブルの可能性に対して、高等学校情報科の生徒として、どのような態度で臨み、行動するのかをホームルーム活動により、自ら考え、身に付けていく力を育てることについて研究した。

キーワード： 情報モラル教育、情報科、ホームルーム活動

1 はじめに

昨今、情報社会が進展してきている。そのような時代を背景に、情報社会で生きる力を養い、情報のスペシャリストを育てるという目的で、本校の情報科はスタートした。

私自身、情報科を担当して4年目になる。本校情報科の生徒の特徴として、日々進化する情報技術や情報機器についての知識欲と技術に対する好奇心が大変強いことが挙げられる。

しかし、日々、情報科の生徒と接していると、情報モラルやセキュリティの意識、また、危機管理の意識に対しては、一般的な知識しかもたないまま、情報機器を使用しているのではないかと意識せざるを得ないのも事実である。

加えて個人面談などで、中学校時代の様子を聞いても、ケータイ（携帯電話は、しばしば略された「ケータイ」という名称で一般に知られている。高校生が利用する携帯電話の大部分は単なる電話ではなく、ネットワーク機器としての拡張機能が備わっている端末である。このような多機能化した携帯電話やスマートフォンを含めて、以下、ケータイと表記する。）やブログで友達と喧嘩をしたとか、いじめがあった、という内容の話が多く、情報機器を使用する上で、倫理面やセキュリティ面での配慮など、まだまだ意識が低いということは否めない。

そこで、日々押し寄せる情報化の波と情報機器の広がりの中で、生徒の心や生活の中に増えていると予想できる問題意識と不安を突きとめ、本校情報科の各科目の授業等における情報モラル教育の取組をふまえたホームルーム活動で、ネットワークに対するあらゆる問題に対して、生徒自らが考えて発表することにより、情報科生徒としての情報モラル育成のきっかけになるのではないかと考えた。

また、本校の平成23年度の道徳教育の目標に、「規範意識や公共心を高め、公正な立場で社会に貢献できる自己の生き方在り方を考えられる力を育成する。」というものがある。そのための方として、ルールを守り、マナーを身に付け、モラルを構築するという目標を立てている。本研究は、情報科の目標である「情報のスペシャリスト」をいかに育てていくのか、という観点からの取組であるとともに、情報科における道徳教育の充実につなげられるものとして意義があると考えた。

2 研究目的

生徒がネットワーク社会で遭遇したトラブルや不安に感じていることを突きとめ、その解決策を生徒自らが考えられる力を育てることを目的としている。

3 研究方法

アンケートの実施によって、生徒がネットワーク社会の中でもっている不安や問題点を把握し、その問題点を自ら解決する力をつけるホームルーム活動を実施する。具体的には、自ら考え、意見を発表するという方法でホームルーム活動を行っていく。

4 研究内容

(1) 本校の情報モラル教育の現状分析

本校情報科の各科目の授業等における情報モラル教育の分野（平成18年度の文部科学省委託事業において作成・公表された「情報モラル指導モデルカリキュラム」で、情報モラル教育を5つに分類したもの）別の取組は、以下のとおりである。

表1 本校情報科の各科目の授業等における情報モラル教育の分野別の取組

分野	取組の内容
情報社会の倫理	「情報産業と社会」において、情報機器を使った書き込みや表現が、周囲や自分にどのような影響と損害を与えるかということ、具体的な事例を踏まえて展開している。それにより情報社会の中で、責任ある態度と義務を果たすことができる人間の育成に取り組んでいる。
法の理解と遵守	「情報産業と社会」、「情報と表現」等の授業で、ネットワーク社会におけるコンピュータの操作や個人情報の重要性を説明し、その扱いを誤ると社会的な責任が発生し、法に基づいて責任を問われるという基本的な知識を理解させるよう取り組んでいる。 具体的には、著作権法、個人情報保護法、不正アクセス禁止法などである。これらの法律については、他の情報科の授業でも、意識付けする機会があれば、随時展開するようにしている。
公共的なネットワーク社会の構築	正しい態度と価値観をもってネットワーク社会に参加するために、その基本となる態度の育成を目指す。具体的には、情報化の光と影の部分を学習し、発表するという取組の中で、自らがネットワーク社会の中で生きており、参加しているという事実を自覚させる取組をしている。また、情報機器を使用する場合、使用しない場合に関わらず、相手の立場を考え、社会的に正しい行動がとれる力を養う。 3年次の「課題研究」では、今までの情報科での学習の集大成として、公に発表するという前提で、情報に関する作品を制作している。具

	<p>体的には、ゲーム、ビデオ、Webページ、アニメーションなどである。その際に、表現上の注意、調べた資料の出所、発表時のマナー、言葉使いなど情報モラルにおける様々な留意点を、自ら気付くようにしている。</p>
安全への知恵	<p>多様な情報発信が可能な情報社会では、従来の状況とは大きく異なり、個人情報の漏洩等^{ろうえい}について、絶えず多様な危険があるという点を理解させる。具体的には、ネットワークにおいて他者とデータを交換する場合など、どのような行為が個人情報の漏洩^{ろうえい}につながるかという視点で学習を展開している。授業としては「情報産業と社会」、「情報と表現」など1年生の授業でも折を見て展開するようにしている。トラブルに遭遇した時に、それを解決するための方策について理解できるように授業を展開している。</p> <p>秋に全校生徒を対象として、「情報時代のセキュリティ」、「個人情報^{ろうえい}をいかに守るか」というテーマで、警察に依頼して映画視聴と講演会を行い、日頃の個人情報やネットワークにおける危機管理の面での注意を生徒に促している。</p>
情報セキュリティ	<p>具体的な技術の問題として、ネットワーク社会におけるトラブルや問題点を理解させて、トラブルの事前、事後に関するセキュリティ対策について考えさせる。具体的には、ファイアーウォールの仕組みやセキュリティソフトの内容、パスワード設定の方法などである。特に、情報モラル教育と情報管理の観点から、2年次の「情報技術概論」や「ネットワーク実習」に先駆けて、1年次の「情報産業と社会」、「情報と表現」でも基本的な仕組みを理解させている。</p>

具体的に、どの内容が、どの科目の学習に属するという確固とした区分けはなく、理論や実習の両面において、授業の中で機会があればその都度、情報モラルについての見識を高めるようにしている。もっとも、実習中心の授業では、情報モラルに関する内容は、実習をしながら機会を見て説明、講義することになっているのが現状である。

また、「情報産業と社会」や「情報と表現」などの科目の授業において、生徒の現状を把握した上で情報ネットワーク上のトラブルを解決する力を育てることに対する重点的な取組はなされていない。検定や国家試験への対応との両立で、時間の関係もあり、必要な事柄を最低限度講義しているにすぎない。

上記の点を反省点として、今回のホームルーム活動の取組で、情報科の生徒としてどのように「情報モラル」を育み、問題解決の力を身に付けるか、ということを生徒に自ら考え、気付いていく機会にしたいと考えた。

(2) 事前アンケートの実施－生徒がもっている不安や問題点を把握する－

情報機器の利用状況や生徒のネットワーク社会に対する意識の現状を把握するために、アンケートを実施した。その際、対象とする情報機器はケータイに限定した。ケータイに接す

る頻度、ケータイを持つ利便性、使用に際しての不安感、そして家族との対話やケータイを使用する上での約束など、ケータイの使用と生徒の生活との関係についてなど、大まかに俯瞰できるような設問を考えた。以下、アンケート内容を紹介する。

【アンケートの内容と回答結果】（対象：本校 情報科 1年生 39人）

○ 次の設問に記号で回答してください。ただし設問（4）～（17）は、ケータイを持っている人のみで結構です。

(1) あなたは、ケータイを持っていますか。

ア 持っている 38 イ 持っていない 1

(2) <（1）でアと答えた人へ>ケータイを持つようになった理由は何ですか。

ア 友だちが持っているから。12 イ 保護者から持つように言われたから 11
ウ 生活を楽しくしたいと思ったから 11 エ その他 4

(3) <（1）でイと答えた人へ>あなたがケータイを持っていない理由は何ですか。

ア 興味が無いから 0 イ 他人とコミュニケーションを取りたくないから 0
ウ 保護者に許可されないから 0 エ 保護者との共有ケータイがある。 0
オ 経済的な理由で持てない。 0 カ その他 1

(4)～(17)は、ケータイを持っている人だけ回答してください。

(4) 1日にどれぐらいの時間をケータイの通話に費やしますか。

ア 10分以内 24 イ 10分～30分未満 1 ウ 30分～1時間未満 5
エ 1時間～2時間未満 5 オ 2時間以上 3

(5) 携帯メールを利用していますか。

ア ひんぱんに利用している 21 イ 時々使用している 17 ウ 使用していない 0

(6) 1日にどれぐらいのメールのやり取りをしますか。（送受信の合計）

ア 10件未満 12 イ 10件～30件未満 13 ウ 30件～50件未満 10
エ 50件～100件未満 2 オ 100件以上 1 カ （ほとんど使わない） 0

(7) ケータイで次の人とメールのやり取りをする日はどれぐらいありますか。

①保護者・家族 ア ほとんど毎日 7 イ 週に数日 16 ウ 月に数日 9 エ ほとんどない 6
②同性の友人 ア ほとんど毎日 12 イ 週に数日 18 ウ 月に数日 8 エ ほとんどない 0
③異性の友人 ア ほとんど毎日 11 イ 週に数日 11 ウ 月に数日 7 エ ほとんどない 9
④学校外の知り合い ア ほとんど毎日 3 イ 週に数日 13 ウ 月に数日 11 エ ほとんどない 11
⑤インターネット・ブログなどで知り合った友人
ア ほとんど毎日 1 イ 週に数日 6 ウ 月に数日 4 エ ほとんどない 27

(8) あなたは複数のケータイやメールアドレスを持っていますか。

ア はい 10 イ いいえ 28

(9) <（8）でアと答えた人へ> 複数持っている理由は何ですか。

ア 相手によって連絡先を使い分けているから。 0 イ いろんな機能やコンテンツを楽しみたいから。 7
ウ その他 3

(10) あなたはケータイの利用（通話、メール、ブログ等）でトラブルに会ったこと、あるいは、会いそうになったことはありますか。

ア ある 9 イ ない 29

(11) <(10)でアと答えた人>どのようなトラブルに巻き込まれましたか。(複数回答)

- ア ブログやメールで悪口を書かれた。 3 イ チェーンメールが送られてきた 7
ウ 自分の個人情報や写真を無断で流された。 2 エ 心当たりのない利用料金請求を受けた。 3
オ 広告などのメールがよく来る。 7
カ 他人からしつこくメールを送りつけられたり付きまとわれたりした。 1
キ ケータイのカメラで撮られたり、写真付きメールで送られたりした。 1 ク その他 1

(12) あなたはケータイのよい点はどこだと思いますか。(複数回答)

- ア いつでも家族と連絡が取れる。 27 イ いつでも友人と連絡が取れる。 30
ウ 遠方の友人とも連絡が取れる。 28 エ 新しい友人ができる。(ブログ、インターネットetc) 9
オ さまざまな調べ物ができる。(情報を得やすい) 19 カ メールで気楽にコミュニケーションができる。 21
キ 楽しいし、元気がでる。 4 ク 自分を表現できる場所になる。 2
ケ その他 コ 特によいと思わない。

(13) あなたはケータイの使用において心配な点は何かだと思いますか。(複数回答)

- ア 迷惑メールやチェーンメールが送られてくる。 12 イ 他人に個人情報が漏れるおそれがある。 20
ウ 学習時間に支障が出る。 7 エ 就寝時間が遅くなる。 6
オ 嫌がらせをされる心配がある。 4 カ 友人とトラブルにならないかが心配である。 3
キ 絶えずメールの受信が気になってしまう。 6 ク 直接他人と話す時間が減る。 3
ケ 利用料金が気になる。 14 コ メールのやり取りが多くて負担を感じる。 2
サ その他 1

(14) 保護者との間でケータイの利用について何かルールを決めていますか。

- ア 決めている 19 イ 決めていない 19

(15) <(14)でアと答えた人>どのようなルールですか。当てはまるものすべてを選びなさい。

- ア 利用料金の上限 12
イ 利用時間、利用場所(食事中は使わない、夜12時を過ぎると使用しない、自分の部屋では使わない、など) 3
ウ メールの使用を禁止したり、送る相手を制限したりしている。 0
エ インターネットについて、使用を禁止したり、利用内容を決めている。 4
オ 相手に対するマナーなどを厳しく言われている。 0
カ 特にルールは決めていない。 0

(16) ケータイの通話やメールと直接話をする時の内容で違う面はありますか。

- ア ある 13 イ 部分的にある 13 ウ ない 12

(17) <(16)でア、イと答えた人>どのような使い分けをしていますか。

- ア 本当に大切だと思うことは、直接会って言うようにしている。 14
イ 大切なことでも、直接伝えるにくいことはメールでやり取りする。 4
ウ 大切なことも、普段の会話もすべてメールでやっている。 2
エ 大切なことも、普段の会話もすべて直接伝え、メールは緊急時だけ使っている。 3
ここからは全員回答してください。

(18) 日々の就寝時間は、だいたい何時ですか。

- ア 午後9時~10時 1 イ 午後10時~11時 2 ウ 午後11時~午前0時 13
エ 午前0時~1時 21 オ 午前2時以降 2

(19) あなたは次のことをどれぐらいしていますか。

①家庭で、1日の出来事を保護者に話す。

ア している 10 イ 時々している 14 ウ あまりしていない 8 エ していない 7

②友人のことを保護者に話す

ア している 8 イ 時々している 18 ウ あまりしていない 7 エ していない 6

③ケータイでの内容を保護者に話す

ア している 1 イ 時々している 6 ウ あまりしていない 12 エ していない 20

④学校の「保護者宛文書」を保護者に渡す。

ア している 21 イ 時々している 11 ウ あまりしていない 5 エ していない 2

⑤朝起きたら家族に挨拶する。

ア している 14 イ 時々している 9 ウ あまりしていない 9 エ していない 7

⑥家族と一緒に朝食をとる。

ア している 7 イ 時々している 7 ウ あまりしていない 9 エ していない 16

⑦家族と一緒に夕食をとる。

ア している 25 イ 時々している 8 ウ あまりしていない 3 エ していない 3

(20) 次のことはどれぐらい当てはまりますか。

①一人であるよりも友だちと一緒に過ごすことが多い。

ア あてはまる 14 イ ややあてはまる 14 ウ あまりあてはまらない 10 エ あてはまらない 1

②外へ出かけることが多い。

ア あてはまる 6 イ ややあてはまる 16 ウ あまりあてはまらない 13 エ あてはまらない 4

③地域のイベントや祭りには参加する。

ア あてはまる 5 イ ややあてはまる 16 ウ あまりあてはまらない 12 エ あてはまらない 6

④塾や習い事に通っている。

ア あてはまる 5 イ ややあてはまる 5 ウ あまりあてはまらない 0 エ あてはまらない 29

⑤近所の人と話をする。また必ず挨拶をする。

ア あてはまる 9 イ ややあてはまる 14 ウ あまりあてはまらない 12 エ あてはまらない 4

(21) あなたは、普段の会話で、相手の立場や気持ちを考えた話し方ができていますか。

ア できている 4 イ まあまあできている 30 ウ できていない 5

(22) あなたは、メールやケータイの通話で、相手の立場や気持ちを考えた伝え方ができていますか。

ア できている 10 イ まあまあできている 24 ウ できていない 5

(23) あなたは、友だちの悩みの相談を聞いてあげますか。

ア よく聞く 10 イ まあまあ聞く 24 ウ 聞かない 5

(24) 友人と話をする時に、相手の立場や気持ちを考えて話をしていますか。

ア している 9 イ まあまあしている 26 ウ 考えていない 4

(25) 人に伝えたいことを上手く伝えることができますか。

ア できる 3 イ まあまあできる 22 ウ できない 14

(26) 自分の行為や言動が、友人や他人を傷つけてはいないかと気になるときがありますか。

ア よく気になる 21 イ 時々気になる 18 ウ 気にならない 0

(27) 目上の人に敬語を使ったり、尊敬を表す態度がとれますか。

ア とれる 20 イ まあまあとれる 18 ウ とれない 1

(28) 人間関係で悩むほうですか。

ア よく悩む 16 イ ときどき悩む 20 ウ 悩まない 3

(29) 自分の行為や言動が、友人や他人を傷つけてはいないかと気になるときがありますか。

ア よく気になる 19 イ 時々気になる 20 ウ 気にならない 0

(30) 部屋で一人、自由な時間を過ごすことが好きである。

ア 好き 25 イ まあまあ好き 8 ウ 好きではない 6

(31) 自分が間違っただ行動をした時、先生や親又は友人の忠告を素直に聞くことができますか。

ア できる 12 イ まあまあできる 24 ウ できない 3

(32) お年寄りや身体の不自由な人、小さい子供など、社会的に弱い立場の人に対して、電車で席を譲るなど、おもいやりの心をもっていますか。

ア もっている 11 イ まあまあもっている 26 ウ もっていない 2

(33) ボランティアなどの奉仕活動に参加したいと思っていますか。

ア 参加したい 8 イ 少し参加してみたい 21 ウ 参加したくない 10

(34) ボランティアなどの奉仕活動に進んで参加したことがありますか。

ア 参加したことがある 19 イ 参加したことがない 20

(3) アンケートの分析

アンケート結果でいくつかのことが分かった。

まず、ケータイを所持し利用している生徒は、ほぼ全員である。その中で、ケータイを使用する上で「保護者となんらかのルールを決めている」という生徒は半数にのぼった。加えて、基本的な生活面に関して、「学校であったことについて家で保護者と話をする。」という生徒は、頻度は別にして半数以上おり、家族と対話や情報交換をする生徒も多いことがうかがえる。

トラブルに巻き込まれたとき、また巻き込まれそうとき他人に相談ができる環境にある生徒が多い。逆に、ケータイのメールの使用に際して「心配なこと」という設問で「他人に個人情報漏れるおそれがある。」と答えた生徒が半数を占めた。生徒がネットワーク社会で生活する中で、個人情報が漏れることにより、自分に被害が及ぶことに対して不安を抱いていることが分かる。実際に生徒に理由を聞いたところ、「どんなふうに漏れていくか分からない。」という意見が大半だった。生徒が抱えている「不安の内容」の一端が出ている。

また、ブログやメールで悪口を書かれたという生徒は、39人中3人であった。友達との感情的なトラブルを経験した生徒が3人いるというのは深刻にとらえるべき事実である。回答数に関係なく、このような倫理的な問題も直接、ホームルーム活動で展開していく必要があると考える。この問題は、将来的に誰でも遭遇しうる問題だからである。

上記アンケート結果を踏まえて、まず「情報科で学ぶ生徒としての情報モラルを身に付け、ネットワーク社会において発生するトラブルに対して自ら考えることにより解決していく能力を育む。」という目標にそって、ホームルーム活動を展開していくことにした。これが「倫理面」、「技術面」での力を併せもった情報科生徒を育てる上で、必要な目標ではないかと思ったのである。

「倫理面」での力とは、相手の立場や思いを理解して行動するというで、いわば人としての基礎基本であり、これは情報ネットワークに関わるか否かによらず当然身に付けておくべき姿勢である。

また「技術面」とは、ネットワーク上のトラブルの際に的確に判断し、対処することができる能力のことである。ネットワーク社会では、今まででは考えられないような問題に巻き込まれたり、自ら引き起こしたりする危険性がある。それゆえ、この「技術面」と「倫理面」の両輪は、生徒が絶えずセットで考えていく必要があると考えた。

ネットワーク上のトラブルは、単にマニュアル化されたケースの中だけで起こるものではない。日々起こるネットワーク上のトラブルを分析するだけでは不十分であり、ネットワーク上の問題と意識して向き合い、その中で「想定されていない問題や事態にまで考えが及ぶようになる」ことがネットワーク上のトラブルを解決する上で大切であると考えた。そのためどのような意識を高めなければならないかを生徒が自分自身で考えることが、ホームルームのねらいとなる。

(4) ホームルーム活動の展開－アンケート結果を受けて－

ア 1回目のホームルーム活動－情報モラルの向上のために－

上記のアンケート結果を受けて、ホームルーム活動を展開した。具体的な事例を出して、考えさせることにより「情報」のもつ重要な性質を生徒に理解させ、続いて、情報科の生徒として、どのような心構えと考えで、ネットワーク社会を生きていけばよいのかという課題に取り組ませた。その中で、生徒が自ら考えて、自分の意見を表明することにより、主体的に気付いていく力を育てることもねらいとしている。

(7) 具体的なホームルーム活動の進め方

まず「情報」のもつ性格を生徒たちに理解させることを目標にした。主体的に考える力を身に付けるホームルーム活動の第一歩である。

生徒自らが考え発表していくことで、情報科の生徒として主体的に考える力を育てるねらいがある。今回のホームルーム活動では、担任が具体的なトラブルの事例を配布し、その事例について感じたことや考えたことを発表させた。その際、クラスを6班に分けて、班別で話し合わせた。30分程度の話し合いであったが、活発に意見が出たと思われる。図1は、意見交換のための事例と設問である。

情報モラルについて考えよう！

○A君は、こんなトラブルに遭いました。

Aくんは17歳の高校生である。親友（Bくん）が、友だち（女の子 Pさん）にAくんのことを紹介したい、という理由で、Aくんに顔の写真付きメールを送れと言ってきた。Aくんは、Bくんの依頼なので言われたとおりに自分の写真付きメールを送った。

Bくんは、送られてきたAくんの写真を、紹介するつもりPさんのケータイに転送した。しかし、そのPさんは、Aくんの写真を、彼女の女友だちのQさんのケータイにも送り、こともあろうにQさんは、某「男の子紹介サイト」にその写真を載せてしまった。

それからというもの、そのサイトには、あることないことAくんの噂や、悪口（ときどき良い噂もあるが）の書き込みでいっぱいになった。Aくんは、サイトの立ち上げから2週間後にサイトの存在に気付いた。彼は、非常に傷つき、サイトの責任者に写真の削除を申し出て、申出から4日目ようやく写真とAくんのデータは削除された。幸い、金品に関わる損害はなかったが、そのサイトは評判の悪いサイトで様々な無責任な書き込みがなされており、写真も無断でコピーできるようになっていた。

- 1 誰の行動が一番問題があるか。(私はこう思う・自由な発想で)
理由も考えてみよう。
- 2 事例のようなトラブルが、起こらないために「Aくん、Bくん、Pさん、Qさん」がそれぞれ、気を付けなければならないことを考えよう。
- 3 ネットワーク時代の「情報」の扱いについて、気を付けるべきことを考えよう。

図1 1回目のホームルーム活動の配布プリント

(イ) 生徒の意見内容の概要

上記の事例で、「誰の行動が一番問題があるか、班ごとに話し合って発表せよ。」という課題を与えた。その意見交換の結果、出された意見は次のとおりである。

①Qさんに責任があるとした意見

一番多かったのが、Qさんが悪いという意見だった。6班中、4班が、Qさんの責任を指摘した。「Qさんの行動は、判断するのに特別難しい事例ではなく情報モラルの基本であるから、当然注意し、気付かなければならない問題である。」、「情報科の生徒にとって、この程度のトラブルは想定しなければならないし、当然、理解しておく事柄だ。」、「サイトに写真を投稿するというのは、根本的に間違っている。」という意見である。

②Pさんに責任があるとした意見

Pさんが悪いという意見が、2班あった。なぜならAくんから送られた写真付きメールを、黙って友人のQさんに送ったことに責任があると考えたからである。なぜQさんに送らなければならないのか、関係の無い人に送るという行為は、失礼だという意見だった。この意見に同調した生徒は多かった。

③Aくんに責任があるとした意見

この意見を発表した班の人は、比較的意識が高いと思われる。この班では、「人に写真付きメールを送る時はあらゆることを想定しなければならない。」と考えたようである。ネットワーク社会で行動するときは「あらゆるトラブルを想定する力を付ける必要があるということ」に生徒が気付いたことは注目すべきことである。レベルは高いが、この問題に生徒が気付いたことは大変重要である。

また、この班の意見に対して反論が出た。友達同士のメールや写真付きメールのやり取りの中では、頭で考えるほど簡単に判断できるものではなく、その時の雰囲気によるだろうし、仲の良い友達なら信じて写真付きメールを渡してしまうこともある。口で言うほど想定することは簡単ではないという反論である。生徒は人間関係の深さの度合いやその時の状況によって、様々な行動のケースが考えられるということに気付き出している様子だった。実際に、この意見に同調する生徒も多くいた。しかし、そう簡単に解決できることではない、という意見も出ていた。

(ウ) 1回目のホームルーム活動についての考察

全体のまとめとしては、Qさんに責任があるという意見が多くを占めてはいるが、それぞれに注意すべき点はあるし、生徒は「誰の責任」とは一概には決めにくい様子だった。あらかじめ用意されたトラブルのマニュアルではなく、その時の状況を見て判断しなければならないという意見や、個人の判断や力量による、という意見が多く出た。

生徒は、様々な立場を想定し、この問題を真剣に考えた。情報モラルは、技術的な問題だ

けでなく、「どう考え、どう行動するかという人間的な土台が大切である。」ということを書いた生徒もいた。

(I) 次回への展望

この時間の最後に「情報とは何だろう。」というやや漠然とした質問をした。挙手により回答を求めたが、数名の生徒が、「どのように伝わるか分からない怖さがある。」という答えを書いた。このように話し合いを通して、「情報」は自分の手を離れると、どういう形で利用されて、どう受け取られるかも分からない、という「情報」のもつ不安定な一面を理解してくれた。

次回は、「情報」のもつ性格を踏まえつつ、「ネットワーク社会」の中で、「適切に問題やトラブルに向き合っていく態度を育てる」ことをねらいとした授業内容を考えることにした。

イ 2回目のホームルーム活動—情報科生徒としての自覚と「情報モラルの育成」を図る—

前回のホームルーム活動では、「情報は、自分の元を離れると、どのように変化し、どう受け取られるかがわからない。」という不安定な一面がある、ということへの理解が深まった。また、情報をやり取りする関係が友人などの親しい者であればあるほど、心のゆるみとなって安全への警戒心が崩れてしまうことも、生徒の意見の中で確認した。

(7) 2回目のねらい

2回目のホームルーム活動のねらいは、「情報科で学ぶ者にとって、想定しきれないトラブルに対してどのような心構えをもつか」ということを生徒に考えさせることにある。

よって、この時間も生徒の自由な意見発表をもとに、意見の内容を取り出していくという方法をとった。

(I) 生徒の意見の概要

まず、図2のような概念図を示し、自分とネットワーク社会の関わりをイメージさせた。その上で、ネットワーク社会の問題点やトラブルに関してどのような考えをもっているか、ということについて意見を聞いた。繰り返しになるが、自ら考えて発表させるということを通して、主体的にトラブルや問題点を分析していく力、自らが解決していく力を育てることが、この研究の大きな目的である。必ずしも毎時間グループ別活動を用いたわけではない。メモに意見を書かせ、出てきた言葉をキーワードにして、担任が、最初の設問を発する場合もあった。

このクラスでは、「何をどう答えるのか」をあまり具体的に説明しなくても、生徒は主体的に意見を出し、それが話し合いのテーマになる。今回も、上記の質問を聞いただけで心に浮かんだ考えを発表してくれた。生徒が述べた意見をまとめると次のとおりである。

*オークションでトラブルにあった人を知っている。

*コンピュータウィルスに攻撃された経

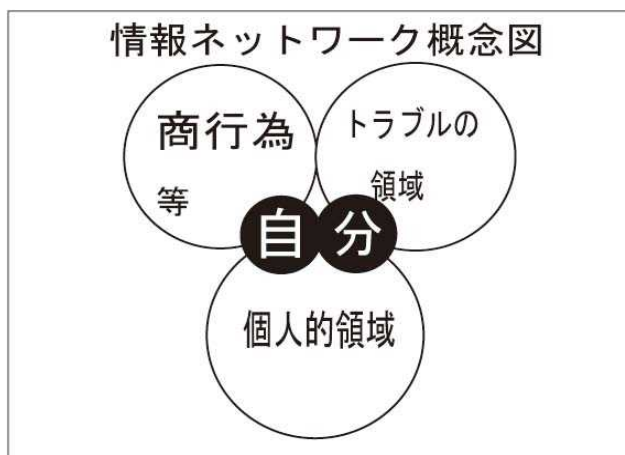


図2 情報ネットワーク概念図

注 この図は、生徒に問題を考えさせる上での概念図である。

験がある。

*仲がよい友人だが、くだらない内容のメールを毎夜してくる。

*サイバーポリスが、やはり一番解決のために頼りになるのだろうか。

*クリスマスの時期などに、民家などでイルミネーションが美しい家があるが、それを写真付きメールで友人に送ると、法に触れるのだろうか。

*ネットワークの世界でしか、自分の居場所のない人間がいるのが怖い。

(4) 予想のつかない事態への対応

話合いの中、一定時間が経過したところで、担任から問題提起を行った。

ツイッターによって「個人のプライバシーを侵害した事件」について説明した後、「自分にとって予想しなかった事態に陥らないために、どのようなことを心がければよいのか。」というやや難解な質問をした。最近起こった事例を提示して、ネットワーク社会ゆえの予想外の広がりと、顔の見えない相手に広がった事象に対してどう対処するか、という意味での問題提起である。これについて、生徒に意見を求めた。

最初は、全く意見が出なかった。悩んでいるようだったので、手持ちのノートに、「走り書きでもかまわない」という条件で、各々の意見を書かせて考えさせた。その結果、数名が考えを述べた。以下、生徒が述べた意見である。

*全く予想できない事態に備えるには、自分の個人情報は（基本的には）絶対に教えない。

個人情報は、人に教えないものだという考えをしっかりとつことである。

*最前線の事象や事件を把握し、それに対処し解決できる技術を身に付ける。

*トラブルに強くなるための知識や頼りになる相談相手を作る。

*自分自身が、ネットワーク上でトラブルになるような行動をしない。

以上、生徒が考えた末に述べた意見であった。生徒は真剣に考えていたし、個人情報漏洩の不安を払拭するために、様々な視座に立って考えてくれたと思う。

(5) まとめと課題

取組の最初に問題にしたのは前回のアンケートの設問（13）で半数の20人の生徒が答えた「他人に個人情報が漏れるおそれがある。」という項目である。この項目に着目して、最初のアンケート実施時と2回のホームルーム活動実施後の生徒の意識を比較するため、再びアンケートを行った。

今回の取組の過程で、トラブルに対して生徒自ら解決の方策を考えていくという目標が鮮明になってきた。よって生徒がネットワーク上のトラブルに遭った時にどうするか、ということに関して掘り下げて理解しておきたいと考え、あわせて新しい設問を作成した。

【アンケートの内容と回答結果】（対象：本校 情報科 1年生 39人）

(1) あなたは、「個人情報の漏洩（ろうえい）」に対する不安をもっていますか。

ア 不安がある 4 イ 少し不安がある 19 ウ あまり不安はない 15 エ 全然不安はない 1

(2) あなたは、個人情報の漏洩（ろうえい）や将来遭遇するかもしれないネットワーク上のトラブルに対して、対策案や対処の方法をもっていますか。

ア もっている 15 イ 少しもっている 15 ウ あまりもっていない 5 エ 全然もっていない 4

(3) あなたは、ネットワーク社会に参加する時に、どのようなことに注意すべきだと思いますか。

思ったことを書いてください。（筆記式）

- * 個人情報を簡単に伝えない。
- * 何事に対しても人に頼らず、自己責任力をもつ。責任感をもつ。
- * おいしい話に近寄らない。
- * 最新の事象や、事件を常に知っておく。
- * 問題に対処する最先端の技術を身に付ける。
- * サイトに投稿される人の意見は、多くは無責任であり、基本的にネットに投稿される意見や発言は、無責任なものが多いと考える。
- * 相手を傷つけることに関しては、十分考えて行動する。
- * 相談相手を作っておく。

以上が、アンケートの結果である。最初のアンケートで情報が漏れることに関して不安を覚えている生徒が20人であったのに対して、今回、「不安がある」と答えた生徒は4人、「少し不安がある」と答えた生徒は19人で、併せて24人に上った。一方、ネットワーク上のトラブルに対する対策案や対処の方法について、「もっている」と答えた生徒は15人、「少しもっている」と答えた生徒は15人で、併せて30人であった。

ホームルーム活動などによる話合いが進む中で、多くの生徒が想定されていない新たな場面に直面することへの不安に考えが及ぶようになったと同時に、その不安と向き合うためにどのような行動をとればよいかという具体的な対処法を、ある程度つかめてきたことが、アンケート結果からうかがえる。

5 おわりに

生徒は、2回のホームルーム活動で、主体的に考える努力をし、意見を発表してくれた。まだまだ自分の考えをまとめる力を育てなければならないが、「他人に個人情報が漏れるおそれがある。」という、生徒の多くがもっていた不安に対して、自ら懸命に考えることにより、前向きに取り組んでいくという気持ちが育ってきたように感じる。

絶えず、ネットワーク上の問題に自らが意識を向け、それに対処するために最新の情報と最善の心構えをもつという姿勢が大切なことである。

今後、様々な問題に対して主体的に考え、自らが気付いていく力を育てるホームルーム活動を生徒とともに考えていきたい。

今回の取組では、生徒が提示する様々な意見に対して、十分に分析して、次への見通しを的確に立てられたかという点は大きな課題である。しかし、ネットワークに対するあらゆる問題に対して、生徒自らが考えて発表するという方法により、より生徒が真剣に考え、意識し、問題の解決のための心構えや方法に取り組んだのは、大変成果のあった部分である。わずか2回のホームルーム活動なので、顕著な成果は出ていない。しかし、これからもこの取組を続けていくという前提に立てば、「情報が漏れることへの不安」と「ネットワーク社会でのトラブル」に対応する心構えをもつことの意義を感じてくれたことは大きな収穫であった。

この取組を契機として、今後も、ネットワーク社会でのトラブルにおける様々な問題提起を行い、情報科の生徒としての「情報モラルの育成」に取り組んでいきたいと思う。

また、情報科の授業における「情報モラル」育成に関する内容とホームルーム活動を、よ

り深く意識の上で関連させながら、「情報科生徒としての情報モラル」を発展的に育てていきたいと思う。

参考・引用文献

- (1) 文部科学省（平成11年、平成21年）『高等学校学習指導要領』
- (2) 国立教育政策研究所（平成23年）『情報モラル教育実践ガイダンス』
- (3) 社団法人日本教育工学振興会（平成19年）『すべての先生のための「情報モラル」指導実践キックオフガイド』
- (4) 中野美香（平成22年）『大学1年生からのコミュニケーション入門』ナカニシヤ出版